

2024年3月27日(水)

老球の細道785号

プラハを訪れたのは「どこのドイツだ」⑦

・・・ユーロバスケットボールツアー紀行〈Ⅱ〉・・・

会津バスケットボール協会 室井 富 仁

【2009年12月29日】PART 1

いよいよ待望のチェコ・プラハ行きの日だ。今回のツアー最大の目的はプラハにあり。私は、朝から年甲斐もなくハイテンション。プラハだ、プラハだ、ハッ、ハッ、ハッ♪♪。室井流「プラハ行進曲」が奏でられる。ウィーン経由プラハ空港着で来たときもプラハは通過した。しかし夜だったので、あの世界一美しいと称される町並みはほとんど見られなかった。今日はチェコっただけではなくすべてが見れる。

朝の出発7時15分。朝食を早く済ませてスタンバイ。ところが、ハイテンションの時は必ずミスを起こす。バスケットボールと同じである。4階に宿泊していた私はエレベーターで1階の集合場所に向かった。このホテルのエレベーターは日本のエレベーターと違って開閉ドアが裏表両方ある。開く時は片方のみ。4階から乗る時のドアと1階で降りる時のドアは反対になる。ところが、何度ボタンを押しても1階のドアは入り口と反対のドアが開く。上がったたり下がったりしながら何度も1階のドア開閉ボタンを押すが、フロント入り口側が開かない。思わず井上陽水の曲『傘がない♪』が頭をよぎる。『ドアが開かない♪』『君に会いに行かなくちゃ♪』。意を決して2階で降りて迷路のようなホテルの中を歩いて1階カウンターに出た。出発集合時間に滑り込みセーフ。この日に限って、そして私一人が乗っている時に限って、エレベーター1階の入り口側のドアが開かなかった。

プラハは街全体が「世界遺産」になっており、「黄金の都」「北のローマ」「ヨーロッパの音楽学院」「百塔の街」「建築博物館の街」などと言われている。ここを訪れた人々がプラハに捧げた言葉である。東西南北のヨーロッパ文化の合流点に築かれたこの町には1200年の歴史と栄光、美しく力強い建造物がたくさん残っている。

1346年、ボヘミヤを統治していたカレル1世が神聖ローマ帝国皇帝に選ばれ、カール4世となると、プラハは神聖ローマ帝国の首都として空前の黄金時代を迎える。その後歴史の紆余曲折を経て、第一次世界大戦後1918年チェコスロバキヤ共和国に。しかし、隣国ドイツにヒトラーのナチス政権が誕生すると、チェコスロバキヤ共和国は解体の憂き目に遭う。第二次世界大戦後、ドイツの支配からは解放されたが、今度は旧ソ連主導による共産化が進む。1968年に起きた民主化運動「プラハの春」もソ連や東欧諸国の軍事介入により挫折。その後、民主化の実現は、1989年旧ソ連のスターリン主義的な共産党1党独裁が内部から崩壊していく過程で起こった「ビロード革命」によって実現。革命以後、政権を異にしたチェコとスロバキヤは93年に分離・独立を果たした。プラハはチェコの首都。

そんな予備知識を携えながらマイクロバスに乗り込んだ。プラハまで約2時間。写真を撮らない私は、道行く光景をしっかりと自分の目に刻みつけながらバスの旅を楽しんだ。〈続〉